

ておるといふ方法ですね。

具体的にいえば、現在のニーズという
と、これは労働力不足、人手不足です
ね。今、一番社会的に困っている問題で
すから、これを解消して、人手不足を補
つてくれるものがないかというソシヤ
ル・ニーズになるんです。これが「省力
化」です。この省力化という用語が如何
に強い力を持っているかということ、
どうして人手不足が出てきたかという
ころまでさかのぼると、日本の人口革命
になるわけです。人口革命というのっぴ
きならん日本の本質的なものから出て来
た省力化という要望ですから、商売とし
ても非常に強いし、また息が長いわけ
です。省力化をやって行く技術としてオ
ートメーションがあるわけです。

オートメーションを私自身が取り上げ
たのは、昭和二十七年でした。日本では
それまでオートメーションというのは無
かったので、そのオートメーションをや
るに必要な機能部品—コンポーネント・
スイッチとかリレイの開発を思い立った
のが昭和二十八年です。今ではかれこれ
二十年になりますから、そういう機能部
品も二万種類ぐらい開発しています。

オートメーションの用法が次第に大企業
から、中堅企業、中小企業へと広がって
きましたね。というのは人口革命から出
てきた人手不足がどうにもならないくら
いに中小企業にも影響して、それは地方
産業にも及び地場産業と言われるところ

にも非常に幅広く出て来たわけです。

次に未来予測の問題。これはちょっと
前の問題とはやり方が違っておりませ
れど、それはちよっと問題が大きくて現
在の社会は工業化社会。次は情報化社
会、アメリカではポストインダストリー
—脱工業化社会といっていますね。日本
的な言い方で、いざ情報化時代、情報
化社会に変わっていくだろうとおぼろげ
ながら頭にあるわけですね。それで情報
化社会にいつ頃から入るかという事を突
き止めたいところなんです。世界の未
来学者もいろいろやっているけれども、
私の方で昭和四十五年に開発した未来予
測理論にシニク理論というのがあんな
です。SINICですね。その発想のもと
になっておるのは、科学と技術と社会、
この三つの間には、瞬間論的な関係があ
るといふ事です。つまり具体的に言
うと、新しい科学ができて、それによ
って新しい技術が生まれ、その技術で社会
を革新していく。逆に、社会の方からソ
シヤル・ニーズが出てそのニーズを満
足する技術を開発する。それがもし必要
だったら科学の方に刺激を与えて新しい
科学の発見をうながす。これが基本的な
発想であって、結論からいうとそれで一
つの技術的なものが出てくるのです。

次の情報化社会は、一九七四年、来年
から入って二〇〇五年までつづく三十年
間の社会なのです。情報化とはどうい
う事かとすると、現在の社会で非常に社会

へ朝三時頃起きて眠いから井戸の水をザ
ア—とかぶって目を覚まして行ったりし
たことがあるんですよ。まあ、よく言うよ
うに若いときの苦労は買ってでもしろ、
苦労しないといかんとおっしゃる。でも
好んで貧乏というの嫌ですからね。し
かし、その頃はそんなもんだと思ってま
した。経験がないでしょう。それがあた
り前だと思ってるんで苦労と思わんで
ね。それをやっていたお陰で、学校を
出てから後、京都の電機メーカーに勤
めて八年ぐらいいやりましたね。昭和四年、
五年の大パニック時代があるでしょう。
あの時、京都の電機屋さんは殆んどつ
ぶれましたね。それで学歴のある者から、
今と言う希望退職ですね。それで失業す
るわけですよ。しかし、もう動めるのが
嫌になったもんで、それまで考えるのが
好きで、ズボンばさみ、ナイフグライ
ンダー、包丁とき、鳥かごとか実用新
案をとっていたんで、昭和五年から三年
間ぐらいいズボンばさみやナイフグライ
ンダーを作ってみたりしましたが、退職金
は少しももらたばかりで、その間が惨
たんたるものです。米の一升買いをせん
ならんように台所は火の車で、その間に
ズボンばさみのストックがよけいでき
て、なにしろ一台もよけいに売らないと
米が買えんですから、住宅街をずーっと
外交—訪問販売をやってみたり、奥さん
に居留守を使われたり、勝手口からはい
らうと思うと「猛犬あり」ということだ

つたりですね。

ナイフグラインダーは売れるかと思っ
ているとやはり売れませんでした。そこでも
うどうにもならなくなると、説明販売を
やったんです。説明をやったら売れだしま
したね。要するに新商品は説明販売せんと
売れんという原則が昔からあるんです
が、誰れも教えてくれない。しかし、こ
れも結局だめで、これじゃいかんとい
うのでまた、電機が恋しくなると立石電機
を大阪で昭和八年につくったんです。そ
のとき開発したのが充電用の機能部品で
す。その専門工場が始めたんですが、
なんと工員一人と徒弟一人と私の三人で
すよ。しかし、それを段々と売り広げて
戦時中が一番最盛期にあの頃のせいぜい
二百五十人位になりましたかね。一生懸
命にやってその位のマーケットしかない
わけです。

それから終戦の年の五月に大阪の本拠
の工場が空襲でやられましたね。幸い、
その頃疎開工場というのがはやってまし
てね。京都の本社のある御室に疎開した
わけです。その工場はプロダクションの
あとを買って、改修して入ったので
すが、現在の本社の場所です。そこに終
戦後居ついてしまつて、OMRONとい
うブランドはそれから出てくるんです。

終戦後は電熱器、電気コンロ、盗電防
止機などを作って、ようやく大繁盛にな
りかかったところにドッジ・ラインがあ
ったわけです。それで私共はガタツとき
て、人べらしや労働争議なんかがあつて

現象が沢山ある。その社会現象をシステ
ムとしてとらえる訳ですよ。そのシステ
ムをコンピュータや自動制御技術を借
りて処理することが情報化ということ
で、そういう技術がサイバネーションと
いう技術です。私どもはオートメーシ
ョンという仕事を二十年来やってまし
た。自動制御ですね。これにコンピュ
ターを組合わせると、電子制御技術にな
る。それがサイバネーションです。せ
せと勉強して昭和三十八年に開発したわ
けです。例えば交通管制システム、無人
銀行のシステム無人駅のシステムなどが
この五、六年間に私どもが開発したシ
テムです。そういう意味で今年が情報化
社会の入口だと思えます。だいたい十五
—二十年間ぐらいうちに、社会におけ
る現象が大部分情報化されて行くこと
になると思えます。その時点における社会
が情報化社会です。

サイバネーションと労働との関係を申
しますと、人間の労働は筋肉労働と手足
の労働と頭脳労働でしょう。手足の労働
を省略するのが省力化で、コンピュータ
が人工頭脳でわれわれの頭脳労働を省
力化するのが省脳化なんです。この省力
化と省脳化が出来んと無人化ならんわ
けです。無人化ということは、サイバネ
ーションによってなるわけですね。

こういう解説は一般には余りやってい
ないですが、私どもは現に実際やってき
たですからね。自信をもって言えると思

殆んどつぶれかかると。昭和二十五
年に充電用の機能部品の需用が出てきて
本気で始めましたが、そのとき私も入れ
て三十三人しか残ってませんでした。ま
あ、またやり直したようなもんです。
しかし、需用も多くないけれども仕方な
しにやっていたところへ、オートメーシ
ョンの話を聞いたわけです。そして昭和
二十七年十月にはオートメーション機器
の生産を開始しました。

熊本での展開

熊本へ出てきたのは山鹿が最初です
が、それは、福岡県の直方での成功がき
っかけです。それから人吉立石電機、天
草立石電機でしたよ。その下請け協力工
場が人吉には二つありますからね。これ
が五百人位。熊本市の周辺で四百人。七
—八軒下請けがあります。山鹿が農協電
機とで五百人。それを総合すると千五百
人が全県下でどんな仕事をやって生産
やってくるんです。月産四億五千万
円。山鹿がみんなそれを集めて検査して
出しておるわけです。私どもではこれを
ネオ・プロデューサー・システムとい
って三十年間やっています。それに今度は
山鹿に私の方の孫会社だけど、プラスチ
ックと成型品のプレスの工場がくるん
です。それからモーターの工場が今荒尾に
少し話を進めています。一番新しい商品
の情報システムに使う機器—エレクトロ
ニクスの非常に高度なもの—これは山鹿

うんです。それが今の私どもの商売にな
っているわけです。だから経営というも
のはもう経営学の時代は過ぎて、私ら経
営者はもう未来学を勉強しないといかん
と思っています。

若いときは苦労すべし

生れたところは、新町三丁目なんです
よ。そして一軒校ですわ。一尋尋常小学
校がまだこちらの新町二丁目にあつたこ
ろですね。祖父と父の時代に三丁目で
屋さんやりました。祖父は仲々経営者
としては立派だったらしい。だいたい繁
盛していたらしいです。赤ん坊時代は、ば
あさんを二人もつけて「おん馬、日傘」
でやってもらったらしいですが、祖父が
なくなつて、父が芸術家肌で盛んに絵は
かり描いていたらしいですね。で段々家
運が傾いて父が小学校二年のとき、亡く
なつたんです。その時はもう遺産ととも
なく、母が一生懸命下宿屋をやったりし
て随分苦労しました。

私も子供心にみかねて、小学五年頃か
ら新聞配達をしたことがあるんです。東
京の新聞が前の日のがちよど夕方づく
んです。それを配達しました。熊本城
ね、あの中に十三連隊とか、師団司令部
もあつたんですが、あの辺に配達に行く
頃はもう夜になるんです。怖い怖い
思ってたことがあんなです。

中学になつてからまた、九州日日新聞
ですわ、上通り一丁目、今でいうと熊日

で取ってしまいましたね。山鹿よりも
と北の方に巻線を作ってくれる工場を探
しています。それから阿蘇立石電機。今
は、農協電機が山鹿市と、人吉、天草、
阿蘇の計画がはじまっています。三浦さ
んの話では天草が二ヶ所、人吉とね、各地
にこれは展開しますから熊本県中、立石
電機の工場分たになりますよ。

熊本は次の時代の産 業構造に最適条件

最近の熊本には、半動体のエレクトロニ
クスのパーツのうちハイテクノロジーの
部品工場があるし、鹿児島にも部品工場
が集まりつつあるということからみると
電卓の生産なんか私ども、九州の方がず
っと便利です。それから本田さんが進出
し日立造船も来てますし、日産さんも出
てきますと当然部品工場が地元で育つて
くる。それに私どもの部品工場も展開し
ますとね。重化学工業自体には遅れをと
つたけれど今度はいいですよ。知識集約
型産業という見方からするとね。それに
大型空港、高速道、新幹線と基盤整備が
進めば、山鹿の場合、臨空港工場として
三十分で行きますからね。それは「遅れ
の哲学」ということですね。京都の事情
によく似ています。次の時代の産業構造
に非常に都合のいい型ですね。その条件
ができてますね。そういう意味では非
常に希望に満ちた時代を迎えたことにな
るんじゃないですか熊本県も。